Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報
HP：http://hw001.gate01.com/zonesystem/
発行日：2008.11
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.41

CONTENTS

- 建築物　私の場合
- 有明撮影会報告
- 伊豆撮影会報告
- ミニ暗室ワークショップ
- クロアチア産印画紙「フォトケミカ」(Fotokemika Varycon)のこと
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション

建築物　私の場合

[ブリッジポート・コミュニティー・チャーチ]

中島秀雄

私達は、モノレイクの際をはしる 39 号線を北に向かって走り、次の街ブリッジポートを目指していた。まっすぐに伸びるハイウェイの先には岩山が連なり、そこを上るとコンウエイサミットの丘に出る。しかし、いくらスピードを上げても一向に近づく様子がなく、後ろに乗る連中は退屈していた。両側は潅木の荒れ地が延々と広がり、見るものといえば青い空と遠くに家が一軒見えるだけだった。ようやく丘を越え、しばらく下るとその先に小さく街が見えてきた。道路を挟んだ右側には住宅が点在し、反対側には牧場がシエラの山並みまで続き、遠くに黒々と牛の塊が見えた。牧場の真ん中を川が流れ、街の裏に広がる湖に流れ込んでいる。湖の際には滑走路が南北に伸び、シーズンには周囲に点在する湖への釣り客を乗せてくるようだ。過去に一度、ここから飛び立つ飛行機を見たことがある。橋を渡るとその先がブリッジポートの街になる。人口 800 人ほどの街にはこれといった産業はなく、牧場経営と観光客の宿泊で成り立っているように見えた。

チェックインが終わったのは午後 4 時半くらいだった。それぞれ部屋に散会し、夕飯まで自由時間となった。

私は、ここブリッジポートに 4 回来たことになる。良質の金の産出で賑わった街ゴーストタウン・ボーディは、ここから 35 キロほど南東方向にあり、この街を拠点に 3 度通ったことがある。そのときから、ホテルの裏にある教会が気になっていた。何度か撮影してみたが、光の具合が悪く満足な写真は撮れずそのままになっていた。

私は、カメラをかつぎ、一人そっとホテルから抜け出した。西に傾き始めた光は街全体を美しく包み、人通りのないこの街が自分の街のようにも感じた。

光は、教会の建物を見事に照らし出し、以前とは違う何か強く人を引き付ける光のかたまりのように見えた。急いでカメラポジションを探した。時間はなかった。レンズは最初から 150mm と決めていた。その場合、道路中央付近まで後退しなければならず、住宅街の道路でそれほど車もなくしばらくは大丈夫と思ってカメラを組み立てた。カメラを上に傾け、レンズ面とフィルム面を垂直にして、レンズを少しライズした。柔らかな皮製蛇腹は、限界までアオリ可能だった。ピントを合わせ、ビュイングフィルターでゾーンの確認をしているときに、一台の車がやってきた。私はカメラを抱え移動しようとしたが、車は左側に大きく迂回し、何もなかったように走り去った。毎回、撮影を優先させてくれるこの国の人々の気配りには本当に感謝の気持ちだ。

建物の影は、ゆっくり移動しているのがわかった。すばやくスポットメーターを取り出し、正面の壁をゾーンⅦに抑えた。実際はもっと明るく、仮に壁をゾーンⅧにしてしまうとオーバー露出になり、ゾーンのバランスが崩れてしまう。イメージとは違うただ明るい建築写真になってしまう。立体感とテクスチャーを充分残し、白ペンキを塗ったコロニアル様式をイメージしていた。直接光のあたる西側の壁は、ゾーンⅧのぎりぎりのところにあり、艶のある窓枠はゾーンⅨと出た。ウッドシングルの屋根はゾーンⅢになり、上空の青空はゾーンⅣ、Ⅴをさしていた。オレンジフィルター効果を考慮すると望むゾーンによってプリント再現されることが分かり、露出のキーを決定した。古いシュナイダーレンズの表面にはわずかにキズがついているが、ガラス設計の瞳のよう

Bridgeport Community Church, Calif.　9/24/2007 17:15 Fine
TX 4x5 Filter #21 Orange　Normal Development
Symmar 150mm f5.6　　f22_1/3　1/25sec
© Hideo Nakajima

なこのレンズが私は大好きだ。シンクロコンパーのシャッターは 1/25 秒を表示しているので､絞りは 22_1/3 となった。光は、更に傾き、周辺の木々の影が教会にかかり始めた。右側の窓は影に隠れてしまった。

このとき私は 2 カット撮影した。まったく同じデーターであるが、背景の雲の形が少し違う。後に現像して確認すると蛇腹によるケラレが手前の芝生にかかり、少しカットしなければならなかった。現像時間はノーマル現像で、JOBO の 4x5 タンクを使い、反転回転するモータードライブを使っている。このタンクは、現像液が少なく 10 枚一度に現像できることから重宝している。

コンタクトプリントは、豊かなトーンになって

いるのでまずこのイメージがスタートポイントになる。フィルターは 1.5 とし、まず正面の壁がゾーンⅦになる露光時間を見つけることからスタートした。そして、その露光時間でワークプリントをつくり、情報を得るようにした。ワークプリントを見ると手前の芝生を焼きこみ、プリントの左右をわずかに焼き込む必要が分かる。空も少し焼きこんだ。西側の白い壁は、水の中ではトーンは見えなかったが、気になったのでわずかに焼きこんだものと、そのままのプリントの二種類作った。結果として何もしないプリントが、乾燥するとほんのわずかトーンになっていて好ましいと思っている。この情報をすべてプリントレシピに書き込んだ。

オリエンタル・ニューシーガル G 2、オリトーン、ニッコール 150mm、コールドライト（80V）、2 回定着、セレニウムトーナー

私は、撮影に夢中で教会の名前を調べなかった。会員の鈴木武さんとは数年前研究会撮影会としてこの街を訪ねたことがある。鈴木さんの撮影したネガには、教会の立て看板が写り込み、わずかに文字が確認できると電話があった。そのネガをお借りして、実体顕微鏡で文字を確認してみると、薄ら Bridgeport Community Church と私には読み取れたことからこの名前にしている。

有明撮影会報告

荒井崇

・日時：２００８年3月１６日（日）
・場所：有明周辺（船の科学館周辺 ）
・参加者：中島代表、北野、石井、酒巻、圓子、宮内、山本、倉又、荒井、（宇野）

今年第２回目の撮影会は、有明周辺（船の科学館周辺 ）で行われた。

午前１０時、ゆりかもめ船の科学館駅へ集合。船の科学館へ向かう。
最初に船の科学館脇に停泊している船、展示したあったスクリューなどを撮影。当日は快晴、影がきつい条件ではあるが、逆に強い光線特有の質感や青空を生かした作品を狙うことも可能。まず中島代表のポラロイドによる撮影指導に始まり、各人さまざまな被写体にトライした。

突然、船の科学館の監視員に声をかけられる。「撮影は許可が必要です。」とのこと。中島代表が事前に許可を得てくれていたにもかかわらず、連絡が届いてなかったらしい。事情を説明して一件落着。そのまま撮影を続けることになった。

１２：００頃昼食。昼食は、コンビニ併設の休憩所にて弁当やサンドイッチなどを食す。後から参加予定の宇野さんに携帯で連絡。しかし連絡が取れない。その後も携帯連絡の行き違いで結局連絡が取れず、当日会うことができなかった。非常に残念。

次の撮影は、船の科学館から少し離れた埠頭。船の荷物を積み下ろししているクレーンがある場所だ。暗い船のトーンを損なわないようゾーンの位置付けに注意しながら撮影。この被写体なかなかフレーミングがむずかしい。私は結局全体を撮影したが、余り良い作品にはならなかった。

ここで１つトラブル発生。石井さんのカメラのジャバラに穴が空いていることが判明。たまたま

私が持っていたパーマセルテープ（黒色の弱粘着テープ）を使って中島代表に修復してもらい何とかクリア。いつも感じるのであるが、撮影時、パーマセルテープは何かと便利なグッズだ。やはり黒くて艶が無いのが良い。しかも剥がしたときに糊が残らない。私は常にこのテープを持参している。

その後、周辺公園にある灯台と吊橋を撮影。吊橋においては橋だけでなく、夕空と遠くに見える対岸の埠頭のすばらしい光景にも出会えた。
日が落ちるまで撮影を行い解散。

今年のテーマは「海」。作品作りに大いに貢献できる撮影会だったと感じた。

＊中島代表コメント

東京湾を埋め立てて出現した有明一帯は、海にまつわるテーマパークや建造物が多く点在している。中でも船の科学館は、海洋文化を一度に眺め体験できる施設として土日には多くの人を集めている。大型客船の係留、船の操舵室、停泊のための錨、灯台、そして、普段は水の中にあって見ることが出来ない船の推進力として重要なスクリューが 3 台屋外に展示されている。真鍮製の輝きとそのオーガニックな形状には誰でも引き付けられるだろう。

今回、テーマ ”海” を捉えるためのデモンストレーションとして、船の科学館とその周辺を撮影エリアに選んでみた。大型カメラで構図や光の具合を確認しながらの撮影となると、動かないものの方がありがたい。大型客船の舳先の美しい形状も、出航することのない船ゆえにいつまでも眺めることが出来る。レンズ交換、カメラ移動、ライズあおりを使って上方のバランスもとる。海や背景との関係も重要だ。

スクリューの形状と表面の削りだしは、水の抵抗と推進力に大きく影響するのだろう。
微妙な凹凸は手作業になると聞いたことがある。黄金色の輝きは、眺める位置をわずかに変えるだけで無限に変化し長く見ていると目がくらむ。海水と激しく競り合った痕跡が細いキズとなって残り、隕石の破片のようにも見えた。
尚、撮影には、船の科学館より事前に許可をいただいた。

次に向かったコンテナーヤードは、立ち入り禁止になっていた。コンテナー専用船に大型のクレーンが 23 トンものコンテナーを軽々持ち上げ積み込む。眺めていても人の姿が見えず、モニターで見るゲームのようにも見えた。ゲームでは時々荷物を落としたりするが、確実に一つずつブロックを積み上げ船の形が変っていく。濃いグリーンの専用船はゾーンⅡからⅢと出たが、プリントではⅢになることはないと感じた。グリーンはフィルムに感じにくいと分かっていた。舳先から延びた二本のロープと船の形状は本当に美しい。
＊ 陸と海がせめぎあうエリアは、自然の変化を見るすばらしい場であり、人工物の宝庫ともいえる。カメラにとって憧れの被写体も多く、これを機会に多くのエリアに出向いて欲しい。

伊豆撮影会報告

荒井崇

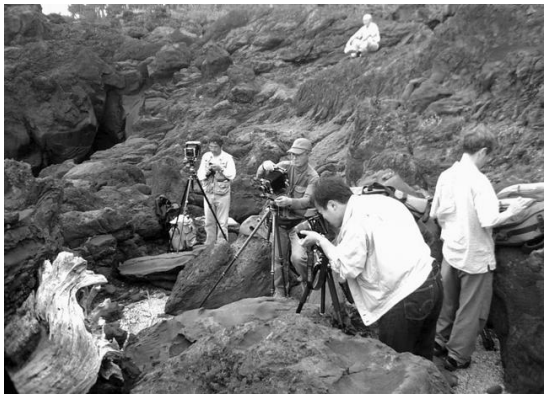
・日時：２００８年5月２４日（土）～
５月２５日（日）
・場所：伊豆高原、城ヶ崎周辺
・参加者：中島代表、宇野、石井、越後、岡崎、岸、橘田、酒巻、浜野、圓子、宮内
（「アトリエ春日」見学のみ参加：荒井、長谷川、畑）

【５月２４日（土）】

１０：００　富戸駅集合。３台の車に分乗し、民宿「つじ」で昼食の弁当をピックアップして城ヶ崎「ぼら納屋」へ移動。

吊り橋に向う途中の岩場に降りて撮影開始。波、岩等の撮影に当たっての着眼点、注意点、露出についてのサジェスション等々、中島先生からアドバイス。カメラ操作についての個々の指導、ポラによる指導等があった。

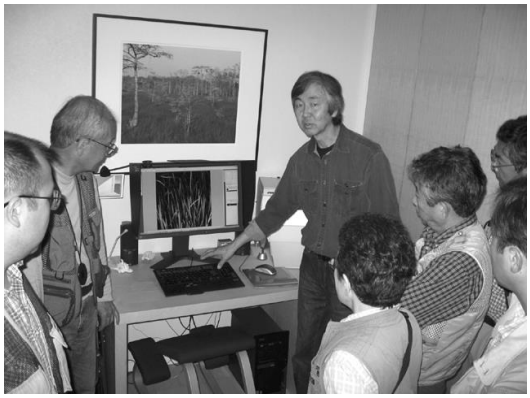
また、今回は、課題被写体として風化した流木を決め、参加者全員が同じ被写体を撮影するという方法を試みた。それぞれの感性、それぞれの技術で撮影した同一被写体作品を後日例会にて見せ合うものだ。６月の例会では、各人の異なった視点による作品の違いがよく現れ、非常に興味深い経験になった。



２時半頃になって雨が降り始め、やむなく撮影は中止。近くの喫茶店に避難して様子を見たが雨は一向にやむ気配がなく、撮影を断念して宿へ。宿は我々だけの貸し切り状態で、和気あいあいの懇親会となった。

【５月２５日（日）】

昨日からの激しい雨が依然として続き、撮影に向うことが出来ず、やむなく９時に宿を出発して一碧湖の「池田美術館」を見学。荒井氏が合流。



１１時半頃に雨がやみ、約１時間と短時間ながら一碧湖で撮影。雨上がりの湿原など格好の題材が豊富。

今回、撮影会のもう一つの目的は、デジタル・モノクローム・ファインプリントの第一人者、春日広隆氏のアトリエを訪ねることだった。

急いで昼食をとった後、「アトリエ春日」へ。アトリエには伊豆高原アートフェスティバルの一環として約２０点余の作品が展示されていて、春日広隆氏の説明を聞きながら見学。畑氏、長谷川氏も合流。

春日氏の作品は、モノクロームデジタル出力プリントで、アメリカの原風景が主体。ニューメキシコの風景などアメリカの広大なイメージが多い。基本的には出会いを大切にしている。シャッターチャンスを待つことはしないとのこと。

フィルムのスキャンは高価なドラムスキャナー。フィルムに液体（油脂のようなもの）を塗って透明な円筒ドラムに貼り付けてスキャン。

プリンターはエプソンの大型プリンターであるが、インクはアメリカ製の特殊な４色グレーインク。この特殊インク用プロファイルソフトはヨーロッパ製の特殊なソフト。更にインクの沈殿によりトーンが微妙にばらつくとのこと。その度プロファイルの調整を行う。
デジタルも高品位を目指すと、大変な労力が必要であることを実感した。

春日氏の作品もすばらしかったが、アトリエの建物がまたすばらしい。作業場と展示スペース、キッチンの絶妙なレイアウト、そして見晴らしの良いテラス。理想的なアトリエだ。

しばらく春日氏と談話し、３時過ぎ解散。

今回の撮影会は、天候に恵まれず、実質半日だけの撮影となったが、波の表現、岩等の被写体の捉え方等具体的な指導が行われ、中身のある勉強会になった。

また、「アトリエ春日」訪問でのすばらしい作品とデジタル技術は大いなる刺激となった。技術の違いはあるものの、私たちのファインプリントに対する意気込みが、一段と増したのではないだろうか。

＊中島代表コメント

春日氏と私たち研究会は、モノクロームファインプリントという共通項で常に情報交換し、信頼関係を深めてきた。今回、デジタル機材とその扱い、作品作りの細かなニュアンスまでかなりオープンに語ってもらい、デジタルモノクロームファインプリントの奥深さを充分感じ取ることが出来たことは大きな収穫だった。

特にカラーリバーサルフィルムからモノクロームに変換する過程は、新たな創作行為に等しく、春日氏独自の世界を築いたと言える。

ミニ暗室ワークショップ

・日時：2008 年 6 月 21 日（土）～6 月 22 日（日）
・場所：田中英司氏（研究会会員）アトリエ
・参加者：中島代表
　6 月 21 日（土）
　　午前：岡崎、北野
　　午後：鈴木（武志）、藤田、石井
　6 月 22 日（日）
　　午前：佐野、橘田、越後
　　午後：酒巻

今回のワークショップは、以下の目的により開催された。
「プリンティングは、写真制作の中でも重要なプロセスと言える。研究会は毎年、暗室ワークとして工芸大学の暗室を借りて実施しているが、基本的に各自がプリントすることになっている。
ところで最近、他人のネガからプリントすることで本人のプリントとの違いが話題になっている。そこで今回、会員のネガから中島代表が標準プリントすることで、表現やプリント技法にどのような違いが出るか、また、今後のプリント制作のヒントになるよう少人数のプリントワークを行う。」

午前９時から開始し、夕方６時過ぎ迄田中英司氏のアトリエで行われた。
時間を区切り「中島代表と参加者１人のみの個人指導」という方法を採用。上記目的にもあったが、参加者の持参したフィルムを中島代表がプリントして見せると云った形式で進められた。
濃度計によるフィルムのチェックに始まり、段階露光からテストプリント迄、中島代表の解説を聞きながらのワークショップとなった。
引き伸ばし機の光源は、参加者が初めて目にする形式の VC コールドライトであった為、多少理解が難しかったかも知れないが、VC ペーパーの性質等がよく分かったのではないだろうか。これ迄上手く焼けなかった自分のフィルムが、忽ち綺麗なプリントに仕上がるのを目の当たりにして、プリントへの意欲が高まった方も多かったようだ。

以下、中島代表談
「今回、皆さんのプリントと私のプリントとの違いを見るにとどまらず、わずかな手の入れようでプリントに輝きや深みが増し、私も、プリンティングの重要性と可能性、そして、楽しみを改めて感じることが出来ました。

今回のワークショップが、ファインプリントを標榜する我々にとって、これ以上手の入れようがない完璧なプリント作りのスタートラインになれば幸いです。」

今回参加出来なかった方々は、是非次の機会に参加することをお勧めする。

最後に、すばらしい施設と大切な機材を貸して戴いた田中英司さんに感謝したい。

＊中島代表コメント

私は、最初のプリント・イメージをコンタクトプリントにおいている。それゆえにコンタクトプリントが大事になる。すべてのネガをチェックできるし、撮影時のミスもここで確認する。また、最終プリントのイメージもコンタクトプリントの中にある。今まで会員には、正確にコンタクトプリントを取るように勧めてきた。引き伸ばし機も精度の高いものを使い、レンズ・ステージ、ネガティーブ・ステージのアライメント・チェックを事前にするように言ってきた。そのためのレーザー・ポインターもある。また、ガラスネガキャリヤの使用は、常識になっている。

プリントにおける現像液の温度や時間も無視できない。１℃変化したらプリントをやめる。現像時間は２分を基準にして、それを短くすることはあまりない。

また、ワークプリントを作って充分眺めること。全体の濃度、左右、上下、部分、コントラスト、気付いたことをレシピに書き込む。その順番でプリントしてみる。ここまで、私はずいぶん時間が掛かる。

プリンティングは、デリケートな創作の場である。

クロアチア産印画紙
「フォトケミカ」(Fotokemika Varycon)のこと

北野龍一

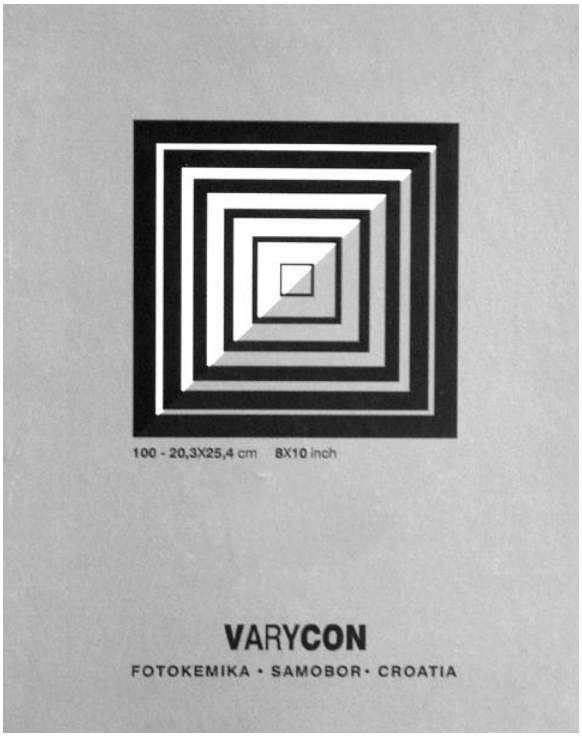
今年の夏、常用していた印画紙、oriental の VC ペーパーが市場から消え、alternative として考えていた Ilford も流通経路の変更の為かヨドバシの棚から無くなってしまったことは、皆様もご存知の通りです。

そこで、この際海外から新しい紙を取り寄せて試みることを考え、インターネットで物色しているうちに、Freestyle Photographic Supplies のサイトで Fotokemika なるクロアチア産の印画紙を見つけました。解説によると、銀の含有量が高く（１平米辺り２グラムとあるが、これが高いか低いか判断出来ない。）数十年昔の印画紙を彷彿とさせるとありました。勿論、厚手（double weight）のバライタ、白の glossy、VC（商品名 Varycon）とありました。フィルターは、Ilford が使えるとあり、感度はノーフィルターで ISO P 100 とありますから、あまり抵抗なく使えると判断し、１００枚入り３箱をオーダーしました。一箱 UD60.99 と安いのですが、運賃が掛かり、結局当時のレートで一箱９，０００円程度についたと記憶します。Freestyle は初めて使ったのですが、サービスは B&H 並み、あるいはそれ以上で、６日後に入手出来ました。

入手後直ちに暗室へ。現像液は、たまたま手許にあった Oritone 純黒調。第一印象は、現像液に入れた時、画像が現れるのが、非常に早いこと。Oriental の場合、３０秒を目安にしているが、Fotokemika は１５秒程度で画像が浮き上がり、気持ちがいい。フィルターも稍高めに反応し、No.2 フィルターで比較すると Oriental よりコントラストが強めになるような印象。

暗室ワークを終えて、仕上がりで比較すると、紙は White とあったが、稍 worm tone。ただ、それ程強くない。紙厚は、Oriental の 0.36 に対し、0.39 と１０％程厚く、手にした時の感触はいい。セレニウムトーニングは、一応 Oriental の場合と同じ条件、即ち５％溶液で２分間のトーニングを行ったが、目立った反応は現れなかった。銀の含有量が多いと云う情報から、何となく効きがよいのではないかと考えていたが、期待はずれ。一度詳しくテストしてみたい。

全体の印象としては、使い易く、円高で安く手に入るなら、普段使いの紙として、使ってもいいのではないだろうか。ただ、Oriental の通販がこの秋から大幅値上げしたことでもあり、暫く使ってみようかと考慮中。



ゾーンシステム研究会定例会日誌

2008年6月14日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島代表、宇野、越後、荒井、松本、岡崎、北野、橘田、長谷川、畑

・作品持参者：越後、荒井、松本、岡崎、北野、橘田、畑

●富士フォトサロンプレゼン作品提出の御願い（来年の写真展会場確保）

・過去の作品でも可。

・スポッティングは丁寧に。

・８×１０サイズプリント

注）余白は片側１ｃｍ程度

注）６×６の場合は印画紙を縦使用。短辺の余白を１ｃｍ

・使用印画紙は、できる限りレンブラントにプリント

・一人２点以上。裏面に氏名を書く。

・７月例会に持参。又は中島代表宛て郵送。

●ミニ・暗室ワークの告知

・日時：６月２１(土)、２２日（日）

・場所：田中英司氏アトリエ（反町）

・持参するもの

・自分のネガ・コンタクトプリント・ワークプリント（８×１０）

・印画紙（バライタ VC　8x10　20 枚程度）

・プリントレシピ用紙（ホームページから印刷可）

・ビニール袋　（未乾燥の印画紙持ち帰り用）

・エプロン、タオルなど

・参加費用：３０００円

・印画紙などは各自が負担。

●春日氏アトリエ訪問（先月のイベント）の感想

・デジタル作品の緻密な表現とプロセスの正確さを学ばなければならない。銀塩写真も撮影、現像、プリントなどそれぞれのプロセスをもっと正確に行う必要がある。

・作品のすばらしさはそれを見せる環境とセットになっている。

・アメリカ西海岸の写真家のようなイメージ。日本人では稀有の感性だ。

ｅｔｃ

●撮影ツアー情報

（研究会の行事ではないので注意。）

・石引氏（旧会員）沖縄撮影ツアー

８月下旬、２～３泊程度。

・春日広隆氏ニューメキシコ撮影ツアー

９月２０日出発７泊９日　４５万円～？

2008年7月12日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者： 中島代表、石井、古谷津、松本、岡崎、北野、橘田、圓子、宮岡、畑

・作品持参者： 石井、古谷津、松本、岡崎、北野、橘田、圓子、荒井（作品のみ参加）

●暗室ワーク

下記の要領でほぼ確定。

・工芸大暗室　８月３０日　９～１８時

●撮影会の計画

・９月までに人物撮影会を実施したい。撮影地の情報を各自提供してほしい。

（許可の要否、雨の場合の対策など、考慮が必要）

●ミニ暗室ワークショップ（先月実施）

・非常に有意義であった。希望があれば再度実施したい。

・今回の主なポイントは以下の通り

・機材のメンテナンスを忘れないこと（引き伸ばし機の水平等）

・コンタクトプリントの重要性

・テストプリントから本番への移行方法（柔らかい調子からスタートする）

・今後もプロセスの正確さを重視したい。

【当日写真展実行委員会での決定事項】

●雑誌等へのプレスリリースは業者を採用。

（今回は幅広いメディアへの掲載を狙う。また日程を前倒し、発行間隔の長い季刊誌への掲載も可能にする。）

・8月初旬103社へ送付。

・掲載用作品は、日程が無いので中島代表の作品とする。(スキャンして高精細インクジェットプリントで提出)

ただし、写真雑誌広報用のみ会員作品も数点加えて９月に送付。写真候補作を次回例会に持参してもらう。

●展示は１１×１４でドライマウントとする。

アクリルの傷には注意のこと。

●富士フォトサロンプレゼン作品提出

・集まりが低調なので、会員へハガキ、電話でプッシュ。

・７月末までに北野氏宛て送付、又は８月例会にて持参するよう連絡。

2008年8月3日(日)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者： 中島代表、宇野、山本、鈴木武、越後、加藤、長谷川、小菅、佐野、酒巻、荒井、石井、古谷津、松本、岡崎、北野、橘田、圓子、宮岡、倉又、畑

・作品持参者： 鈴木武、越後、加藤、長谷川、小菅、佐野、酒巻、荒井、石井、古谷津、松本、岡崎、北野、橘田、圓子、宮岡

●暑い夏の作品創りヒント（中島代表より）

・撮影は早朝に済ませる。風も少ない。

・身近なものにカメラを向けよう

例：植物（芙蓉の花、畑の作物類）の有機的な形の面白さ、テクスチャーをクローズアップしてみる。背景を整理するためには、布バックなどを用いるとよい。

・古いコンタクトプリントを眺め、プリントしなかった作品を再発見してみる。

時間が経ってから見ると面白いものもある。

今までストックブックに糊付けしていたが、昨年からバインダーに切り替えた。こうすると必要な一枚だけとりだすことが出来る。撮影会の思い出が詰まったアルバムとして、時間が経っても本人には新鮮に見る。

このまま抱えて喫茶店に持ち込み、眺めるのもいいもの。隣の客がときどき覗き込んでくる。撮影したフィルムのすべてを見ておくべき。ネガでは分からな

いし、プリントの魅力も伝わって来ない。
・コンタクトはＲＣペーパーでとるのが楽。
・印画紙現像液はオリトーンが２４℃でお勧め。
●暗室ワーク
日時：８月３０日（土）９～１７時
場所：東京工芸大学暗室（中野坂上）
参加費：３０００円
・持参するもの
　・自分のネガ
　・印画紙（バライタ 11x14 ）
　・プリントレシピ用紙
　　（ホームページから印刷可）
　・ビニール袋　（未乾燥の印画紙持ち帰り用）
　・エプロン、タオルなど
　・覆い焼き、焼き込み用黒紙
・余白は５～１０ｍｍとする。

【当日写真展実行委員会での決定事項】
●富士フォトプレゼン
・プレゼン用写真
　これまでに集まった作品からプレゼン用写真を選んだ。
・プレゼン用写真持込
　後日日程、参加人員を決めて実施する。
●ＤＭ関連
・完成目標：１０月２０日
・９月例会で掲載写真を数点選択。8x10 プリントをその場で受け取る。
・外注先、仕様等は中島代表へ一任。
・DM 送付先は、昨年リストに対して追加等あるかどうか中島代表に検討していただく。
●写真展候補作品
・９月例会で決定する。
・本番プリントは１０月例会に持参してもらう。（最終的には額装までに各作品２枚づつ提出する。１枚はスキャンして研究会で保管。）
・本番プリントは１１×１４
　余白は幅の狭い方を５～１０ｍｍとする。
　（今回はドライマウント仕上げのため、余白は小さくても可能。イメージを大きくするのが目的。）
●パーティー
・開催するかどうかペンディング。
（場所の問題有）
●額装作業
・作業当日、できるだけ自分の作品は自分で額装してもらう。（自分でできるよう体験してもらいたいため。）
●雑誌用プレスリリース写真
・写真雑誌広報用のみ会員作品も数点加えることになっていたが、協議の結果、他の雑誌と同様中島代表作品のみを提出とする。

2008 年 9 月 13 日(土)
横浜市市民活動支援センター会議室
・出席者： 中島代表、荒井、浜野、圓子、宮岡、石井、越後、加藤、松本、佐野、酒巻、古谷津、倉又、岡崎、橘田、宇野、長谷川、北野、畑
・作品持参者： 荒井、浜野、圓子、宮岡、石井、越後、加藤、松本、佐野、酒巻、古谷津、倉又、岡崎、橘田
・作品のみ参加： 藤田、宮内

●写真展、展覧会情報
　・フェルメール展　　東京都美術館（上野）
　カメラ・オブスキュラを使って描いたとも言われる描写は必見。
　平日でも切符を買うのに１０分以上はかかる。
　・細江英公人間写真展 『抱擁』と『薔薇刑』

ギャラリー・ホワイトルーム（原宿）
１０月 ２６日まで
デジタル技術により、過去の作品を巨大サイズにプリント。
・ヴィジョンズ オブ アメリカ　第二部
東京都写真美術館 １０月１９日まで
エドワード・ウェストン、マイナー・ホワイトなどの作品を展示。
８×１０の密着プリントなどで、銀塩写真のクオリティの高さに改めて感動させられる。

＊中島代表コメント
最近の写真作品は、売り易さ等の理由で大型化する傾向もある。我々の写真展では１１×１４という小さなサイズで、銀塩のクオリティの高さを展示したい。

●写真展の準備について
・DMには出品者全員の名前を載せる。９月例会で決定。
・各自のDMの必要枚数は１０月例会で申告してもらう。
・フレーム/アクリル板の追加希望は１０月例会で荒井さんに申し込む。
手持ちのアクリルに傷があれば、交換すること。

●今年の研究会写真展記事が、コマーシャルフォト誌１０月号に掲載決定。（９月１５日発売）

●例会開催日時について
・例会を日曜日にすると集まりが良い傾向有。
アンケートを取り、曜日変更（時間も含めて）を行った方が良いかどうか調査する。

●フジフォトサロン（2009 年会場候補）
・８月２５日、プレゼン用作品をフジフォトサロンへ提出。
（中島代表、北野氏、橘田氏３人で訪問）

【当日写真展実行委員会での決定事項】
●DM作成（基本的には中島代表に制作を一任。）
・１０月１１日までに案を作成。
（１０月例会までに載せる作品を決定。できれば過去に載せてない人の作品を優先。また、海の作品を選びたい。）
・１０月３１日完成予定。
・今年のテーマ「海」はDMには表記しない。
（作品の内容を見ると、テーマとして強く打ち出すのがむずかしいため。ただし、写真展会場のキャプションには入れる。）
・DM送付先リスト訂正に関しては、中島代表確認済。宛名印刷はDM完成後、小菅氏に御願いする。
●作品展示方法は撮影者毎に展示。
（テーマ毎に分ける展示はしない。）
●マットはボード３枚構成とする。
・通常のヒンジ付ブックマットの中に、プリントをドライマウントしたマットをコーナで固定。
（合計３枚のボードを使用。作品保護のため。）
●マット発注枚数は来月例会で決定する。

●オープニングパーティーは行わない。
（会場が使えないため。外部で行うと多大な費用がかる。）
●会場でのレクチャーは行わない。
（レクチャー開催時（土曜日午後）、お客様が作品を鑑賞できなくなってしまうため。特に今回は会場が日曜休廊のため、貴重な休日である土曜日にお客様が集中すると思われる。）
●会場で作品講評会を行う。

2008 年 10 月 11 日（土）

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者： 中島代表、荒井、圓子、宮岡、石井、越後、加藤、松本、佐野、酒巻、古谷津、倉又、岡崎、橘田、北野、畑、小菅、岸

・作品持参者： 荒井、石井、加藤、佐野、古谷津、岡崎、橘田、畑、小菅、岸

●写真展の準備について
・11/8(土),11/9(日)9:00 から額装作業。
（場所：田中英司さんのアトリエ）
・フレーム/アクリル板の追加希望を当日集計した。
・今年はオープニングパーティー中止。（会場でパーティー禁止のため。また、近辺に妥当な会場が無いため）
・写真展開催中の 11/29（土）16:00- 講評会開催予定。
・会場展示用作品コメントは、200-300 文字文章を各自作成し、古谷津氏へ送付。（内容は自由）
・会場配布用作品データは、各自古谷津氏へ送付。
[データ内容]
タイトル（日本語、英語いずれでも可）・使用カメラ・使用レンズ・フィルム（フォーマットも）・シャッタースピード・絞り・キーとなるゾーン（２カ所程度）・使用印画紙・撮影年月日、撮影場所
●今年の研究会写真展記事が、コマーシャルフォト誌１０月号に掲載済。（中島代表、橘田氏作品２点掲載）
●例会開催日時について
・事務局畑氏がアンケートを取った結果、現状どおりが良いという結果となった。（土曜日午後）
●フジフォトサロン（2009 年会場）正式に決定
・2009 年 11 月に決定。（詳細日時は未定）
・感材はフジ製品を使用のこと。

【当日写真展実行委員会での決定事項】
●ＤＭ作成
・10/31 完成予定。
・プレス等へ送るＤＭは、完成後小菅氏が住所印刷。11/8 額装日に持参し、額装参加者がコメント記入。
・パーティー案内はＤＭに記入しない。
●会場展示用作品コメントは 200-300 文字。
（制作担当：橘田氏）
●会場展示用作品タイトルはテーマ作品のみ「テーマ海」の文字を小さく記入。
（制作担当：橘田氏）
●会場展示用ゾーンシステム解説は、昨年のものを流用するが、作例写真のみ変更。中島代表の今回出品作品（教会のイメージ）とする。
（制作担当：畑氏）
●会場配布作品データは展示順に記載。
（制作担当：古谷津氏）
●小野さんの作品は、黒リボン等を付けて展示。
●作品販売は、基本的にドライマウント無で販売。（サインは裏面）ただし希望があれば、１点のみドライマウント有で展示品を販売。（その際は 2000 円アップ）

【トピックス】

[ゾーンシステムワークショップ開催]

・2008 年 4 月－6 月、中島代表によるゾーンシステムワークショップが開催されました。
（今回はプロラボ「ヒットオン」主催）以下ワークショップ時の案内です。

ZONE SYSTEM ＜モノクローム銀塩ファインプリント＞ ◇レンタルラボ ヒットオン◇

講師: 中島秀雄

神奈川県生まれ。東京写真大学(現・東京工芸大学)卒業。写真家・細江英公氏の助手となる。1972年、細江英公オリジナルプリント展のためのプリントを担当。1977年、細江スタジオから独立しフリーとなる。1986年、アメリカ・バモント州 ゾーンⅥワークショップに参加。1995年"ゾーンシステム研究会"設立・代表。個展「ナチュラル・ランドスケープ」pgi ギャラリー、「光への観照」写大ギャラリー、「リバー」ギャラリーオリーブ、「光りへのまなざし」ポートレートギャラリー、「Ghost Town, Bodie」アートプラニングルーム青山など多数。写真集に「藤田昭子の原風景」(筑摩書房)、「ゾーンシステム・ハンドブック」(朝日ソノラマ)などがある。川崎市市民ミュージアム写真講座、写真講座コルプス、東京写真文化館、東京工芸大学大学院、ギャラリーイシス等ワークショップ、レクチャー多数。東京工芸大学非常勤講師、京都造形芸術大学非常勤講師。

ゾーンシステムとは

アメリカの雄大な自然を撮り続けたアンセル・アダムス(注)は、撮影からネガ現像、プリントまでの一貫したシステムを考案し、銀塩モノクローム写真の特徴を高い次元で確立しました。この方法は、被写体の光をゾーンとして捉えることが大きな特長で、そこから、仕上がりプリントを想定するビジュアライズが可能になります。そして、つぶれない黒、飛ばない白を確認し、適正露出を見つけるというものです。フィルムや印画紙の特性を充分引き出すこのシステムによって、中間のトーンを最もきれいに再現することが可能になり、クオリティーの高いプリントが得られるのです。また、現在市販されているフィルムや印画紙の特性を個人で知るためにもゾーンシステムの必要性は高まっています。

講座の特徴

中型、大型カメラによるモノクローム写真表現の特長は、何といっても深みのある豊かな階調表現といえるでしょう。しかし、露出やフィルム現像に多くの経験やデリカシーが求められ、なかなか取り組めないのが現状です。ワークショップでは、光りの特長や露出の意味、フィルム現像やプリントの意味を確認し、一人一人のシステムを平易に構築できるように進めます。ファインプリントを目標とする場合、使用するフィルム、印画紙の特性を充分引き出すことが重要です。そのためには、まず、使用するフィルムの感度を見つけることからスタートします。次に、新しい感度に見合う標準現像時間を見つけるための撮影に進み、現像、プリントすることで最大黒、最大白を見つけ現像時間を視覚的に判定します。そして、キャリブレーション、ビジュアライズの訓練、撮影実習、プリント制作によって完成にこぎつけます。当講座は、中判によるモノクローム銀塩写真に興味のある人であれば、誰でも参加は可能です。 ※終了作品は、アート・スペース・モーターにて展示予定です。

カリキュラム

第1回 4/20(日) 13-17時 会場：ヒット・オン
ゾーンシステムとは何か。フィルムの感度測定のための撮影。フィルム現像の方法と注意事項。 各自現像

第2回 5/4(日) 13-17時 会場：ヒット・オン
標準現像時間を求めるテスト撮影、4本撮影。現像方法と注意事項。 各自現像

第3回 5/17(土) A班9-13時、B班14-18時 会場：ヒット・オン
フィルムの標準現像時間を見つけるテスト撮影。最大黒、最大白を求め、撮影ネガからプリントすることで標準撮影現像時間を見つける。

第4回 5/31(日) 10-17時 会場：ヒット・オン
ゾーンシステムによる撮影。撮影現場でビジュアライズの訓練とゾーンの見分け方。ポラロイドによるデモンストレーション。 各自現像

第5回 6/7(土) A班9-13時、B班14-18時 会場：ヒット・オン
ファインプリント制作。コンタクトプリント、テストプリントの方法。バーニング、ドジングによるプリントテクニック。自然乾燥

第6回 6/15(土) 13-17時 会場：ヒット・オン
仕上げ→作品講評→まとめ→終了。ドライマウント、プリント収集方法。ベストプリント1点を目標にする。

準備 ●中判～8x10のカメラ ●三脚とレリーズ ・スポットメーター(ペンタックス スポットメーター推薦) ●印画紙 バライタ紙、8x10サイズ50枚程度 ●フィルム：常用しているブローニー・フィルム10本程度、4x5,8x10シート、フィルム 25枚程度 ●18%グレーカード ●筆記用具

Information

[鈴木匡写真展「Nude, Monochrome」開催]

2008 年 6 月 27 日（金）～7 月 8 日（火）ギャラリーCRADLE にて、会員である鈴木匡氏の写真展が開催されました。

作者からのメッセージ

「レンタル暗室のダークルームさんの協力をいただきまして、過去 6 年間つづけてきた自分の仕事を写真展と言う形で世に出すことにしました。」

[暗室ワーク開催]

2008 年 8 月 30 日（土）、工芸大にて恒例の暗室ワークショップ（プリント実習）が行われました。

今年はミニ暗室ワークショップも既に開催され、（詳細記事は本文参照）これで２回目となります。各人今まで以上に成果を上げることが出来たのではないでしょうか。

・出席者： 中島代表、圓子、石井、越後、松本、酒巻、倉又、北野

[写真展紹介（現在開催中）]

「国立美術館所蔵による２０世紀の写真」

・場所：千葉市美術館

・会期：2008 年 11 月 1 日～12 月 14 日

・２０世紀の写真芸術の流れを回顧する展覧会。
　４つの国立美術館所蔵品を集めた展覧会。

「アンセル・アダムス、アメリカ大自然を撮る」

・場所：京セラ美術館（京都）

・会期：2008 年 10 月 24 日～12 月 3 日

・京都国立近代美術館のギルバートコレクション。

【売ります】

中島秀雄

・ ハッセルブラッド以下一式　　280000 円

ハッセルブラッド 500CM

プラナー 80mm

プラナー 120mm

ゾナー 50mm

レンズフード

フィルムバック